

全てのご意見

- 1 統合民営化によって、地域に密着した春日保育園が無くなるのは残念。地域住民に見守られて育った子どもが、自分の地元を大切に思うことは、過疎化が進む地域にとって必要。保育園が無くなれば、住みたくても住めない地区になる。地域と保育園が密に関わり、保育をしているおかげで保護者は安心して子どもを預け、仕事ができる。上記のような環境をなくさないでほしい。
- 2 春日保育園に子どもを保育してもらい、今年で10年になる。地域住民と保護者の関係が良く、統合はとても残念。このまま春日保育園を残してほしい。
- 3 まちづくり、地域の活性化にとって、地域に保育所や学校があることは欠かせない。市町村合併で地域から役所がなくなり、活力が奪われた旧自治体を多く見てきた。出先を無くしたが、統合先で機能をより充実させたといわれても、補えず、失うものが多かった。公立保育所を統廃合、民営化など国のいいなりに過ぎない。米子市の子ども達の未来に責任を持つ行政がそのような方針に乗ることがあっては絶対にならない。先人が築き上げた市民共有の財産である公立保育所を無くしてしまうことは、保育水準の低下につながる。鳥取県内で米子市が先んじて行うなどとんでもない。子ども達の保育に必要な一番の環境は、保育士の処遇改善である。統廃合すれば改善に向かう保証があるのか。公立保育所の統合民営化が現場の保育士をどれだけ傷つけているか。身分が不安定、先が見えないのではますます保育士不足は深刻になる。一番の問題は、国が公立保育所の運営費を一般財源化したことだ。上記について市民と共同で国に物申していく必要がある。統合廃止・民営化計画による試算を提示してほしい。米子市は、全ての資料と返信用封筒をつけて、非正規を含む保育士全員に無記名のアンケートを取るべきだ。上記について、FAX、メールでも受け取れるようにして保育士の本音を聞く努力をすべきだ。説明会は通り一遍ではなく、市長も出席し、意見を聞く機会を必ず持つてほしい。公立保育所統合・民営化絶対反対。
- 4 統合民営化は市単独の構想で、福祉会の合意に基づくものではないが、十分に論議してから市民に提案するのが本当ではないか。公立保育園は地域性がある。地域の活性化を担っているのも、なくさないでほしい。富益と彦名を統廃合となっているが、間に夜見があり不自然さを感じる。富益は、住宅増加で若い人口が増えている。市の計画に障がい児の支援があるが、障がい児施設に勤めていた経験から子どもを支援する一番はマンパワーであると思っている。上記から保育も同じであり、特に障がい児の受け入れには保育士の目の届きやすい小さい集団が良く、決してハード面ではない。子どもは発達している。公立保育の役割とは子どもの発達を公的に保障する事ではないか。安易な統廃合は拙速で、民間も含めて米子の保育をどうしたら良いかを議論していくことが大切だと思う。
- 5 公立保育所が地域に存在することで、地域の活性化の役割を果たしているのも、なくさないでほしい。特に、小規模施設の子育てが意味が深いと思うので、150名になる統

合はしてほしくない。

- 6 「公立保育所は一園でも多く残してください。」これは「保育を考える会（米子市）」でとある園長が言った言葉。上記は行政の一つとして対応した園長だからこそ地域の子育て全般には、公立保育所の役割が大切だと言ったのだと思う。地域にとって、市民にとって、実益がない民営化・統廃合はやめてほしい。
- 7 地域、米子市全体、鳥取県全体を活性化させるためには、「みんなが、住みやすい所」が重要だと思う。個別構想は上記に反する。逆に、公立を増やし、施設等も充実させてほしいと思う。
- 8 市は、市全体の保育の質が低下したり偏ったりすることがないように指導し、保育の質の担保を図っていく責任があると思う。民営保育施設にしてしまうことは、米子市が保育に関わる責任を放棄してしまうことだと思う。今ある保育所で改築したり、増築したりして、できるかたちでの保育を望みます。
- 9 米子の未来を支えていく子ども達に身近な地域全体で、保育に関わって行く為に公立保育所の統廃合等に反対。子ども達の社会性（いろいろな子どもがいる事）を身につける為にも公立保育所で行政と連携しながら運営していくのがベストだと思う。教育全体（保育も）を市場に任せるのはよくないと思う。（お金儲けの対象にしないでほしい。）
- 10 保育園は子ども同士の人間的な平等を生む大切な施設として、いろんな家庭環境・障がい児等も含めて、共に育つ意味は大きいと思う。公立保育所を、より、充実させるためにも、小規模保育所をなくさず、改築・機能に手をかけて、お金も無駄使いないようお願いしたい。上記より、新設は相当な金額がいると思う。
- 11 保育所は米子市民の財産である。私たちの税金で運営されていることなので、保護者や現在働いている人達だけの説明だけでは納得いかない。上記より全市民に説明をお願いしたい。地域から保育所がなくなったことを考えたことがあるのか？保育所の子ども達の声や、毎日聞いて勇気づけられる高齢者はどうなるのか？物言わぬ子ども達に目を向けてほしい。統合・民営化は絶対反対。
- 12 市民に何も伝えずに勝手に統廃合を進めようとするなんてとんでもない。保育関係者、地域、様々な人たちと話し合うべきだ。
- 13 今後、小規模保育園はどうなるのか？作りすぎた市はどう考えているのか！
- 14 公立保育所はなくさないでほしい。
- 15 公立保育所を減らすのは困る。民営保育園は保育士が定年まで働ける安定さが不安。現状で建て替えした方が安くないか？
- 16 地域の子育て拠点である保育園をそのまま（今の場所に）続けておいてほしい。
- 17 今のままで減らさないでほしい。身近に在ることが利用しやすいので、遠くになつては利用する人が困ると思う。
- 18 子どもの数は減少するかもしれないが、働く女性は10年後20年後増えていくと思う。保育施設は必要であり、各地域から公立保育所をなくしていくのは危険だと感じ

る。現在、各園をみると、定員より少ない園はほぼないようなので、現状維持のまま改築という道はないのか？

- 19 米子市公立保育所、統廃合民営化ありきの発表だが、今ある公立保育所をなぜ統廃合に。理解できない。公立はなくさないでほしい。
- 20 本当に統廃合が必要なのか疑問。公立保の必要性。地域にある為に子ども達はのびのびできるのではないか。大きな園が悪いとは思わないが、良いとも思わない。私は少人数でしっかりかかわってもらえる小さな園が良い。企業型は保育園ではない。と思う。それほど公立は大事。
- 21 公立保育所の統廃合に反対。人口減少と統合は結び付かない。民営化を進めるにあたり公募をしていない。財政を明らかにしていない。保護者説明会が明確でなく、説明になっていない。公立保育所は地域に根ざし、地域の今後の生活、活性化も考えていくべき。公立保のあり方は身近なつながり抜きでは成り立たない。現施設の建て替えの方が良い。現在働いている職員の声を知りたい。90人定員の施設がベスト。職員も子どもも安心して生活できる!!現場の意見を取り入れるべき!
- 22 保育園は小学校区に1つは残してほしい。統廃合は人数が減れば仕方がないと思う。しかし、保育条件の悪い企業型などへ都合よくシフトさせるやり方は許せない。統合の相手である福祉会が拒否した場合どうするのか?大切な子ども達を園庭のない所で育てるのは問題がある。保育園が大規模になると異年齢や思いやりのある人間関係を作りにくいと思われる。いじめの問題も保育園時代に芽生えている。統廃合によってあぶれた園児を一部の議員が関わっている保育園に送り込もうとしているように見える。統廃合・民営化の準備が十分な説明なく先走って進んでいるように思う。
- 23 地域に必要とされてつくられた保育園なので、地域住民や保護者に充分説明して本当に統廃合や民営化が必要なのか検討が必要。公立保育園の良さ、質の高い保育を大切にしていってほしい。
- 24 説明会で「反対意見を言われても、統合を進めます」と言われたが、試算も福祉会との合意もないのに、決定事項のようにになっているのはおかしい。120~150人というのが本当に適正規模なのか。100人以内の方が職員にも子どもにも安心だと思う。境港市民なので会の代表の方が提出お願いしたい。
- 25 構想にびっくり。何が何だかわからず、少しいねいな説明を求める。多くの人が求めていると思う。公立の役割を教えて欲しい。統廃合による建設費等教えて欲しい。改築ではいけないのか。
- 26 説明会が、保育関係者と保護者を対象に行われたが、市民説明会が開催されることなくパブリックコメントの締め切りで終了となるのは疑問。長年地域と深いかかわりをもって運営されてきた公立保育所を市民への十分な説明責任を果たさずパブコメ締め切りで終了するのは納得できない。今回の「個別構想」に係る財政上の試算が全く示されていないのはおかしい。全国的に公立保育所の統廃合・民営化を進める要因は、

児童の定員割れだが、米子市公立保育所はほぼ充足率を満たしている。統廃合に伴う費用の算定（試算）と情報公開が必要。初めから統廃合・民営化をするためだけの「個別構想」計画と言われても仕方ない。統合・民営化で市の負担が減ることを想定しているのか。民営化で地方交付税は減額になるので、市の財政収入は減ることは想定されると思う。「構想」で建替え後の公立保育所の定員を120～150名規模にする計画案が示されているが、施設適正規模は90名。公立保育所の定員が90名以上になると公定価格が下がる。大規模化ではなく現状の施設定員数で行く方が良いと思う。統合・新設して子育て支援センター・一時預かりなどの充実を図るとあるが、新設でなければそれらの支援はできないのか。現在の保育施設が手狭であれば、施設整備（増改築）を行えば充分に上記の役割は果たせると思う。子育て支援センターなど、身近なところにあるからこそ保護者の利用が促される。統合・新設されることで支援センターが遠隔地になると今までの地域の人と人とのつながりができにくく、関係性が崩されることになると思う。米子福祉会との統合を、市との合意に基づくものでないとしながら、一方的な説明を保育関係者・保護者にしてきたことになる。米子福祉会へ3園の移管を想定しているが、随意契約が地方自治法上可能であるのか。民間移管（委託）であるのに統合としているのは問題。福祉会側も何の条件提示もない状態で、「個別構想」の計画案は受け入れがたいと話している。十分な財政上の検討と、関係者・市民を含めた協議が必要と考える。今後20年で1000名の児童が減ると人口推計されているが、市はこれを座して待つのか。女性の就労率は考慮されているのか。公立保育所運営費と民間保育所運営費で、児童一人当たりの運営費の公私間格差は計算しているのか。今回の「個別構想」に係る一連の問題は、市が情報公開と保育関係者・保護者・市民の合意なく、説明責任を果たしていないところにある。

- 27 民営化と統合の流れに反対。私立の場合は、保育士の勤続年数が公立に比較して短く、経験の蓄積ができにくいと考える。公立保育園の園長の長年の経験から、見過ごされかねない、支援が必要な園児の情報を得ることができたことがある。上記は公立の安定した雇用の長所だと考える。一時、自由保育の流れがあり「1年生問題」などの時期があったが、流行に流されない小学校入学後のことを考えた保育を公立保育園ではしていた。公立であることによりLD等専門員との連携がとりやすく、入学後の手立がとりやすいと考える。私立では一定の壁がある。家庭環境など課題が生じたとき、市の他の部局との連携がとりやすいと考える。小学校校区に公立保育園があることにより、子育ての悩みなどが相談できる地域の親同士のつながりが保てる。統合計画によると、多人数のため一人ひとりに目が行き届かなくなりがち。現在地で、建て替えて、施設を充実することこそ肝要と考える。特に支援を要する子は概して多人数が苦手である。災害が起きたときに、小さい子どもがある家庭の避難所での苦労を見聞きする。公立保育園を災害時の避難所に利用する観点から、身近な現在地で防災施設としても利用できる建て替えを望む。公立保育園は保育内容や施設、人員等において、

私立の手本となることができると考えるし、そうでなければいけないと考える。

- 28 基本的な考え方、重点目標、重点目標に対する取り組みについては賛成。重点目標の達成に向けた保育園の方向性については、反対。公立保育園を14園を8園に統合するという事は、その分地域から保育所が消えるということ。保育園は、働きながら子育てをしたい若い夫婦にとって、不可欠の社会的共通資本であり、職場や住居に近接した場所に設置される必要がある。若い世代のIターンやUターンを推進しようとした場合、安心して通いやすい保育所が十分整備されているかは、極めて重要な問題。保育園を地域からなくすということは、少子高齢社会を加速させる悪い施策と考える。少子高齢社会に歯止めをかけるためにも、保育所の数を減らすべきではないと考える。1園の人数を多くすることにも反対。幼児にとって保育士との密接な関係(愛着的関係)が重要。1園の人数を多くすることは、子どもの集団的管理につながり、保育士と子どもの関係性を阻害する可能性がある。保育士の目の行き届く保育から逆行する施策だと思う。インフルエンザ等の感染症の予防という観点から見た場合、1園の人数はなるべく少なくすべき。幼児段階で免疫力は完成しておらず、人数の多さが、感染症の広がりの原因になる。統合するのであれば、子育て支援センターは8園全てに設置すべき。3園が民営であっても、委託事業化とすれば可能。必要性の検討をすべき。一時預かりについても、子育て支援センターと同様、8園全てに設置すべき。この問題も必要性を検討すべき。
- 29 低年齢保育が急性中耳炎のリスクファクターである。2歳以下では免疫の能力が低く、その間に集団保育をすると耐性菌をもらいやすく急性中耳炎の重症化の一因となるとされている。耳鼻咽喉科においては、2歳以下の児は、昔の大家族制の家(数代に及び複数の家族が一つ屋根の下に住まう)ぐらいが上限。上記に関し、幼児をたくさん集めて集団保育をすることは望ましいことではないと考えられている。今般150人規模に統一するという方針であるということだが、150人という数はどういう計算から出てきたものか。免疫学的に不完全な2歳以下の保育はそれ以上の児童と分けて、数が多くなりすぎないことが急性中耳炎の発生と重症化を防ぐ意味で大切。急性中耳炎はそれ自体でも難聴を伴うが、反復性中耳炎や滲出性中耳炎に移行する可能性も高く小児難聴については言語発達の遅延に影響する。リスクを高めるような規模の拡大は考慮してほしいと思う。
- 30 公立保育所の統合建替え・こども園には反対。あがた保育園単独での存続を希望。安全面で建て替えが必要であれば、あがた保育園単独存続のまま建て替えを希望する。①統合により定員が足りなくなる、定員を減らす必要性を感じない。定員120~150名のこども園にすると、定員を最大の150名で8園中5園198名分、定員120名で8園中6園200~350名分が統合前より少なくなる。現状、米子市内の保育園は定員いっぱい空きがない状態であり、あがたでは兄弟を入れたくても定員いっぱいに入れられない現状がある。あがたもこたかも全年齢定員満員で空きは0で、統合の必要性を感

じない。出生数も大幅な減少はなく、ほぼ横ばいの状態であるのに、統合により保育園の定員を減らせば待機児童が増える。上記より保育園に預けられないと仕事が続けられない➡第2子、第3子を諦めるという選択肢も出てくる。出生数の減少につながるだけ。第一希望の保育園に入れられなかった場合、第二希望以降の保育園に通うことになるが、大規模な統合になれば保護者の送迎の負担が増える。上記に加え、兄弟別々の保育園に通うことになった場合はさらに負担が増す。上記では「安心して子どもを生み育てられるまち」とは言えないと思う。

②定員が多すぎる、長年築いてきた地域との繋がりがなくなってしまう。あがたは定員90名だが、統合で120～150名になるのは定員が多すぎる。定員が多くなればそれだけ同年齢での繋がりも異年齢での繋がりも薄くなる。子どもが心豊かにのびのびと成長できる環境は100名以下の小規模の定員で保育士に見守られながら、友達と過ごせる環境だと思う。安全面で園舎の建替えや補強は必要だと思うが、子ども達の幸せは決して新しい園舎を与えることではないと思う。あがたでは地域住民との繋がりが深く、地域住民に見守られながら育っている。統合で今まで築いてきた地域との繋がりがなくなってしまうところもあるのではないかと。統合移転となれば、遠くなり行けなくなる場所もあるし、定員が120～150名に変更となれば、今までのように受け入れてもらうのが難しくなる。長年育んできた地域住民との繋がりがなくなってしまうのは非常に残念。

③こども園にするメリットがない。 ※以下、長時間保育の園児➡保育園籍、14時降園の短時間保育の園児➡幼稚園籍で記載。

幼稚園籍の園児は預かりがない場合、毎日14時降園であり、保育園籍の園児はそれを毎日見送らなくてはならない。幼稚園籍の園児は春休み・夏休み・冬休みがある。親の就労という親にも子どもにもどうしようもない理由で、保育園であれば感じなくてもよい寂しさを子どもに感じさせることになるのは反対。保育園籍、幼稚園籍の親で様々な問題が起きることがある。(役員決め、役員会開催の日時、行事の曜日、保育園籍・幼稚園籍での保育料の差等)市内には幼稚園もこども園もあり、定員が足りないという現状もない状況。幼稚園に通わせる親と保育園に通わせる親のニーズには大きな違いがある。保育園・幼稚園同士の統合であれば、こども園になるのは自然だが、保育園同士の統合でこども園にする必要性を感じない。

④現在働いている保育士の数を減らすだけであり、逆効果。米子市の説明では働く保育士の減少が予想されるので、統合によってそれに対応したいとあるが、逆効果だと思う。統合となれば、必要となる保育士の数は現状より確実に減る。継続して雇用を希望する保育士を、市は市役所への配置転換等なしで、そのまま全員保育園で雇用するつもりがあるのか？1年更新の臨時職員等は希望しても更新してもらえないのではないだろうか。現状、どこの保育園も正規職員の数は少なく、臨時職員がいるから開園できている状態。それなのに雇用契約上問題ないからと、このような行政都合の統

合で実質のクビにするのはいかなものかと思う。このような扱いは「公立で働くのは辞めよう」「もう保育士で働くのは辞めよう」と思う職員がでて不思議ではない。上記から結果として働く保育士の数を減らしてしまうことに繋がる。保育士の減少に対応したいと記載しているのに、それでは本末転倒である。保育士の資格は持っている働いていない人はたくさんいる。それは保育士の労働環境の劣悪さからくるものである。保育士の減少に対応したいのであれば労働環境や給料面での改善をするべきであり、統合によって対応するというのは大きな間違いである。今回の統合・移転・こども園化の話は「保育園にかかる予算や保育士の人件費を減らしたい」という行政側の都合にしか感じられない。子ども・保護者・保育士全てにデメリットが多く、新しい園舎になること以外にメリットが全くない。子ども・保護者・保育士にとってより良い環境を目指すものではなく、行政にとって都合の良い環境にしようとしているだけのように感じる。「安心して子どもを生み育てられ子どもが豊かにのびのびと成長できるまち、よなご」を目指すのならば、統合・移転・こども園化は中止してほしい。

- 31 保育園の統廃合及び認定こども園への移行には反対。統廃合により、園児の受け入れ可能人数が減ることが予想されるため。統廃合により、認定こども園となることで園児が保育園籍・幼稚園籍に分かれ、長期休暇などにおいて不平等な思いをする可能性があるため。統合後は認定こども園へ移行することだが、保育所同士の統合ならば統合後も保育所とすべき。認定こども園にする必要はない。統廃合により、保育園職員の整理解雇、契約の更新が行われないこと、労働条件の不利益変更、新卒保育士の雇止めが予想されるため。統廃合により、それまでの保育園独自のやり方が大きく変わることが予想され、職員に負担がかかり、サービスの質が低下することが予想される。希望する保育所に申し込みが殺到する可能性があり、統合後は選択肢が少なくなる。第一希望の保育所に入所できず、第二希望以降の保育所に入所が決まっても送迎の負担が大幅に大きくなる。保育所の建替え工事の予算化を行う際、大半は地方債によって賄われるものと思われ、一般会計の支出額は全体予算からはごくわずかである。現在、全年齢の保育園空き状況は0ないしごく少数であり、1園ごとの受け入れ可能人数を少しずつ増やすことで対応した方が良い。保護者の立場からは現時点において保育所の数を減らす合理的な理由はない。保育園に預け入れたい親と幼稚園に預け入れたい親とでは園に望むサービスが異なることが予想される。保育所に預け入れている親は朝から夕方まで保育所に預け、その間は労働時間に充てているのが大半である。幼稚園は午後早々には迎えに行く必要があり、そこまで労働に充てない方針或いは希望の保育所に預け入れたくても入所できなかった家庭である。保育所のイベントや保護者会などがあっても上記のように保育所に通わせている親と幼稚園に通わせている親とでは勤務条件も異なる。上記より保護者が保育に携われる機会を奪う結果となることが予想される。国の働き方改革により、女性の就労が促されている。また一方で出生率の向上の取り組みも行われている。上記の受け皿であるべき保育所を統

合し数を減らすことは、国の施策に合致していない。果たして、保育所の統合事業は米子市が掲げる「安心して子どもを生み育てられ」る街と言える施策なのか大いに疑問である。子どものころの記憶は2, 3歳くらいまでは遡れる。つまり、人をその人たらしめる土台となっている大切な時期である。上記の時期に友人やお世話になっている保育所職員と離れ離れになることは極力避けるべきである。園児は1日の大半を保育所で過ごしており、園児にとって保育所は第二の家であり、園庭は庭であり、友人や保育所職員は家族である。たとえ一人ないしごく少数であっても友人や職員との離別は子どもにとって心理的負担が大きい。定年や保育士本人の異動希望がある場合を除き、全職員が統合先の保育所へ異動することができないならば、統廃合事業は進めるべきではない。仮に保育所を統合したとしても問題が残る。保育所にはそれぞれの実務のやり方、地域との結びつき、保護者や職員同士の結びつきがあり、同じ保育であってもそれに至る過程は異なる。つまりは職員の実務上の負担が大きく、サービスの改善どころか悪化につながりかねない。認定こども園への移行を伴う場合は更に負担が大きくなる。建物の老朽化・耐震性能に問題がある場合を除き、既存の保育所を建て替える必要はなく、少子化とはいえ現在の状況では統合の必要もない。米子市に必要なのは保育所の統廃合ではなく、「人口規模の割に保育所が多い」つまりは「子育てのしやすい市である」ことを対外的にアピールする。上記のアピールにより、鳥取県外や鳥取県西部地域、中海圏の子育て世代を米子市内に呼び込むことである。統廃合により一時的に人件費・水道光熱費等が削減できたとしても、将来的に就労可能な世代が減り、社会保障が必要な世代しか残らなくなる。就労可能な人口が減れば当然税収は減るし、企業は撤退していき更に税収が減る。統合を伴う建替えはあまりに近視眼的な解決手法であり、その未来はくらい。「子どもが心豊かにのびのびと成長できる」とは、子どもの環境を行政の都合で振り回さず、保護者が保育に参加し、近くで見守り育てていくこと。

- 32 今後、子どもの数が減っていくことは否めない。保育所を効率的に統合することは、当然の流れであると思う。施設が建て替わり、保育所の設備を充実することは子どもにとって良いことだと思う。
- 33 米子市の公立保育所の統合構想について、ぜひ早く進めてほしい。日本全体子どもが減って、人口が減っていく中で、たくさんの公共施設を維持していくことは、自分の子どもや孫に、大きな負担となる。これからどれだけ、子ども達や孫たちが苦勞するかわからないが、年金もなく社会保障が上がり自分たちですら苦しくなる見込みである。少子化していくのにたくさん残す必要がない。小学校やほかの公共施設も自分たちの身の丈にあった施設であればよい。いろいろ先細る中で、子ども達に良い環境を残すには、統合で良いサービスを集中して行ってほしいと思う。新しくなると、園の外にある遊具も今よりもっと子どもが喜ぶものにできるし、毎日素敵な公園に行くみたいで、楽しくて仕方ないのではないだろうか。車で送迎するので、多少遠くなっ

でも苦ではないし、セキュリティがしっかりした安全な施設にしてもらった方が親も安心。いろいろな考えの人がいると思うが、私は統合してもらった方が、子どもの為になると思う。子ども達が、毎日楽しめる、小さな発見をして成長できる、いろんな友達と関わって過ごせる保育所を、早く整備してほしい。

- 34 すばらしい構想だと思う。早く実現してほしい。
- 35 市民の税金は保育所だけに使われているわけではない。人口が減少し、高齢者になった時に生活を支えてもらえるか、福祉は大丈夫かと考えるといかに効率的に保育所を運営していくかも大事な要素だ。
- 36 公立のあり方についての説明だったせいかわ、保護者も公立にばかり目を向けるし、公立が全てだと言わんばかりの意見が出ていた。米子市には大規模の幼稚園も小規模の保育園もいろいろあって選択肢はたくさんある。公立が私立より良いとは思えない。反対する人は、違うところを選択すればよいと思う。
- 37 保護者説明会では反対者が目立っていて、賛成・統合建て替えを希望する意見が言いくかかった。
- 38 米子市が全児対象の5歳児検診をスタートさせ、発達障害児への切れ目のない支援体制を作ろうとしている事は賛成。子育て支援センターが統合園にのみ併設されるのは反対。子ども総合相談窓口をつくり、子どもや保護者の様々な悩みに対応できる支援体制を作っていくことは良いと思う。子育て支援センターが併設されていない地域では、子ども総合相談窓口まで出かけて行く事をためらう保護者に寄り添うことができにくくなると思う。公立保育所の数を減らすことは反対。財政難や少子化という背景があるにせよ若い世代の移住定住を促進したい市が保育所の数を減らすのは、子育て環境の悪化につながる。老朽化した保育所をそのままにしておくわけにはいかないが、統合の必要性についての説明が不十分だと思う。パブコメを求める姿勢が不十分。9月25日に市役所に用事があり、出かけたついでにパブコメの資料をもらおうと1階のパブコメのコーナーに寄ったが、資料が何もなかった。急いでいたのでそのまま帰ったが、27日にも置いてなかった。近くの職員に子育てに関するパブコメの募集資料について問い合わせると担当部署に行くように言われそこで受け取った。ちょうど私が出かけたときに限って無いのかとも思うが、10月に入ってからも棚には家庭児童相談室の案内のチラシが入っているだけだった。ネットを利用する人が多いとは思いますが、たくさんの意見を求めるのであれば、資料は募集期間中、手にとって見れる様にしておくべきだと思う。説明会との関係でパブコメの締め切りが延びたのは良かったと思う。